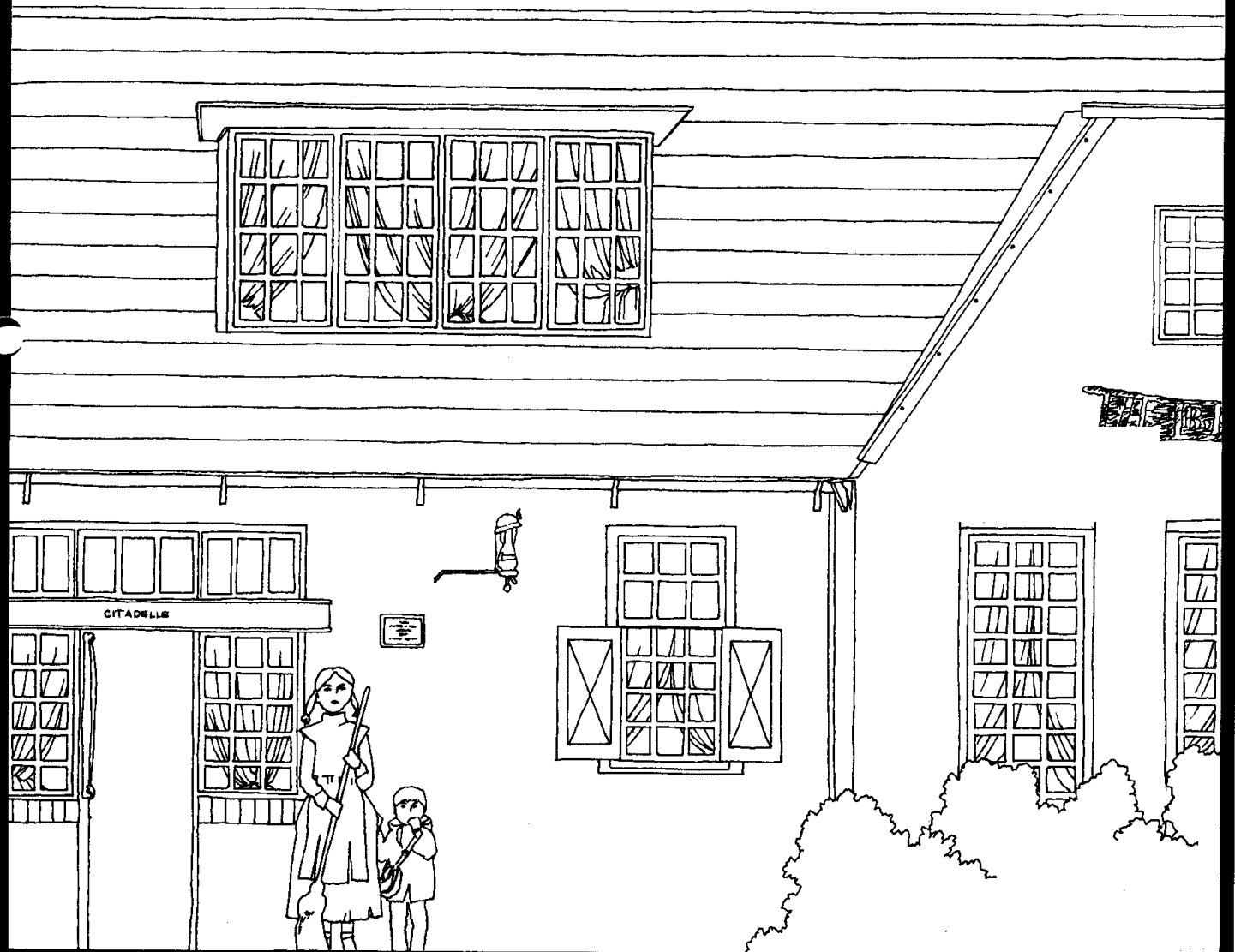


YAMAHA ELECTONE®

取扱説明書

C-80

楽しさは正しい理解から



ごあいさつ

このたびはヤマハエレクトーンをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。エレクトーンは楽器づくり90年の経験をもとに、ヤマハが精魂こめて作りあげた電子オルガンです。(エレクトーンはヤマハ電子オルガンの商品名です。)この楽器はさまざまな楽器の音色を持ち、初心者の方でも手軽に楽しめる機能を数々取り入れていますので、ご家族みなさまの楽器としてご愛用いただけることと存じます。本書では、エレクトーンを持つ多彩な機能を十分に活用していただくため、正しい取り扱い方を説明してあります。ぜひ本書を譜面立てに置き、実際にエレクトーンで操作し、確認しながらお読みくださいますよう、お願い申し上げます。

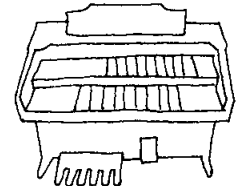
目次

	ページ
1. 楽しさは正しい理解から。—————	2
2. まず音を出してみましょう。—————	4
3. それぞれの機能の楽しみ方。	
その1—————	6
その2—————	8
その3—————	11
● 仕様と音域表—————	12
● 楽譜の読み方と指づかい—————	13
● 付属端子と音のエチケットについて—————	14
● 長くお楽しみいただくために—————	15
● エレクトーン教室のご案内	
● このような現象は故障ではありません—————	16
● サービスと保証について—————	18
● エレクトーン豆知識—————	20

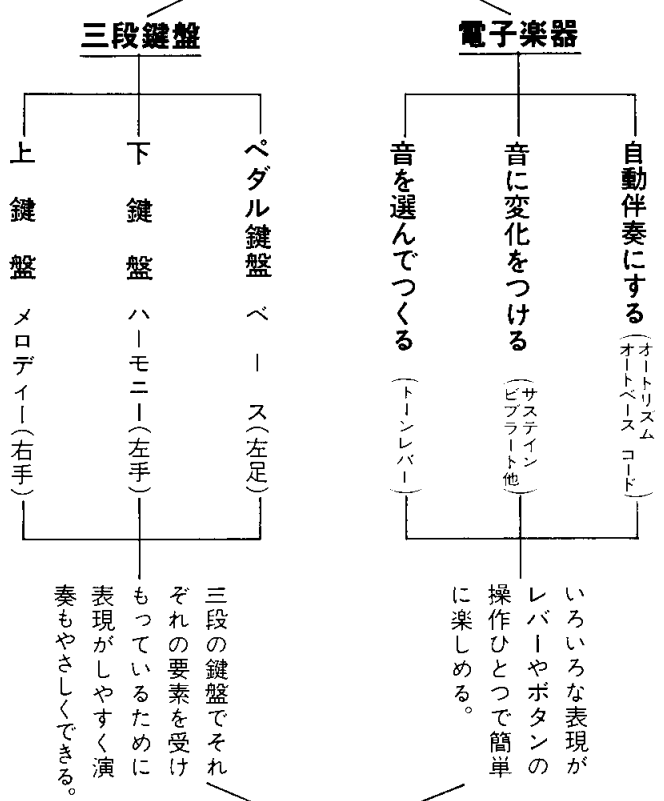
1 楽しさは正しい理解から

★エレクトーンはこんな楽器です。

エレクトーンは少しでも多くの人々に音楽のある生活、楽器を演奏する楽しさを知っていただきたいという考えから生まれた、楽しく、やさしい楽器です。この楽器は歴史こそ浅いものですが、急激に進歩する電子技術を取り入れながら、より楽しく、やさしい楽器を目指して、改良を重ねてまいりました。例えば同じ鍵盤楽器のピアノでは、演奏技術をマスターするには長い年月がかかります。メロディー、ハーモニー、ベースという三つの要素を一つの鍵盤で表現するために、その組み合わせがとても複雑になってしまうからです。でもエレクトーンでは、これらの要素を三段の鍵盤がそれぞれ一つずつ受け持ち、はっきり使い分けることができますから、それぞれの要素を一つずつ加えていけば完成された音楽になるのです。ちょっと見ると三段も鍵盤があって、難しそうな印象を受けられるかも知れませんが、実はこの方が簡単に演奏できるのです。そしてエレクトーンは、簡単な操作でいろいろな楽器の音を出せ、それらを組み合わせたり、効果を加えたりできます。つまりこれ一台で他の楽器何台分もの働きがあり、その上、指一本で和音がリズムに合わせて鳴る自動伴奏もできますから、その楽しさは無限に広がっていくものといえるでしょう。



エレクトーンの特徴

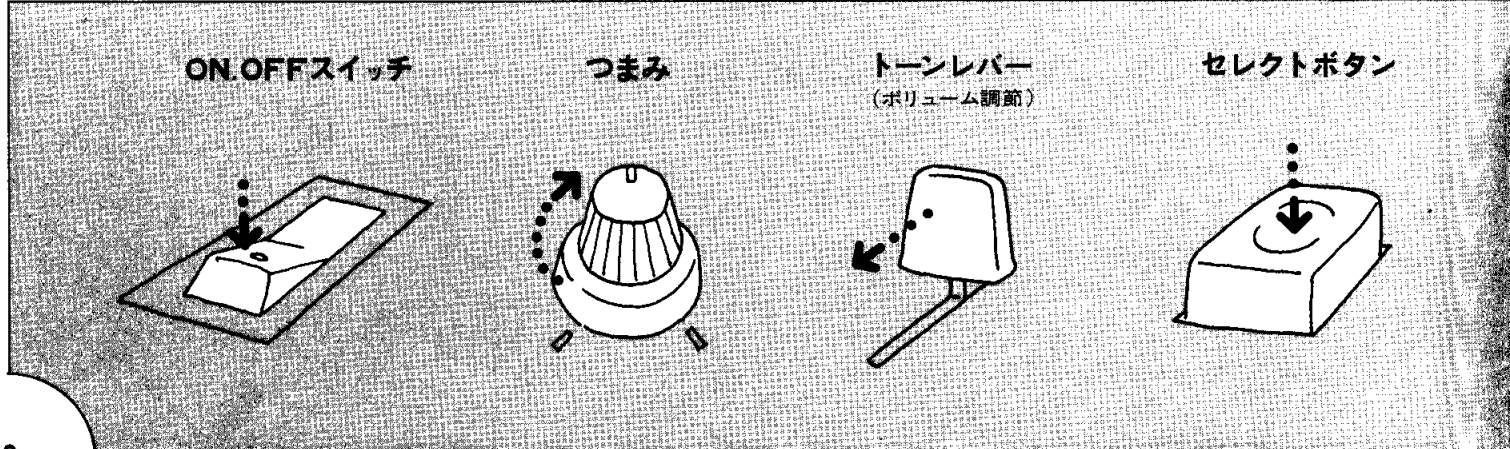


三段の鍵盤でそれぞれの要素を受けもっているために表現がしやすく演奏もやさしくできる。

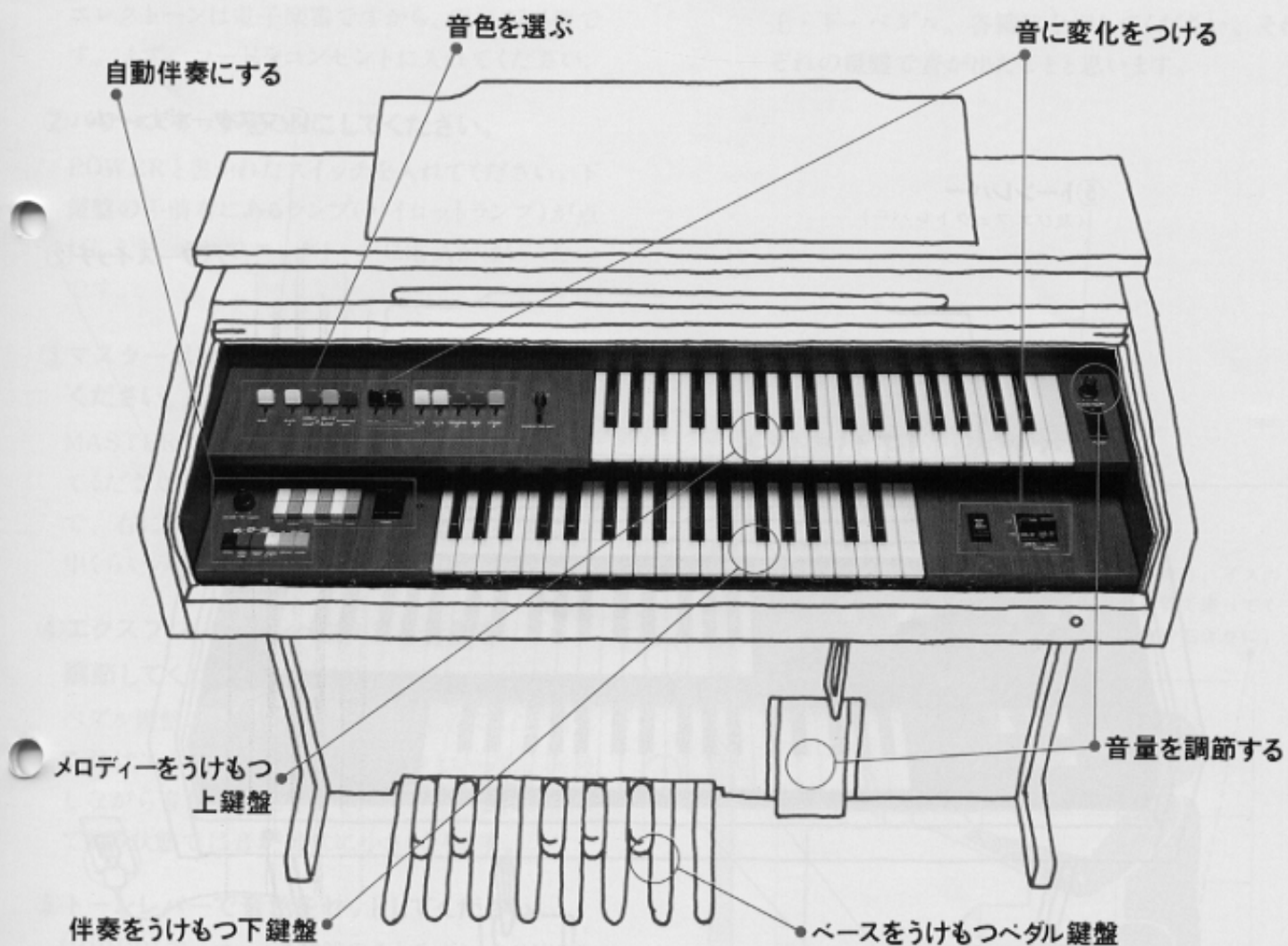
いろいろな表現がレバーやボタンの操作ひとつで簡単に楽しめる。

楽しく、やさしい楽器

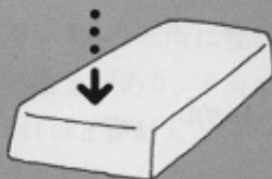
★レバーやボタンなどの操作のしかた。



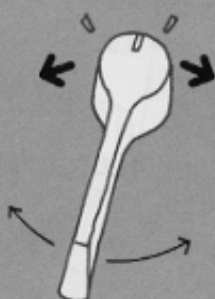
★各装置の役割



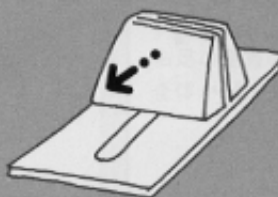
タブレット
(ON, OFF スイッチ)



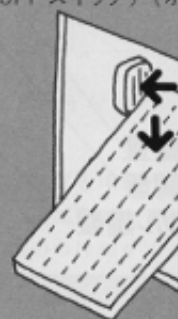
コントロールレバー



スライドレバー



フットスイッチとペダル
(ON, OFF スイッチ) (ボリューム調節)



2 まず音を出してみましよう



①電源コードをコンセントに入れてください。

エレクトーンは電子楽器ですから、電気が必要です。まず、コードをコンセントに入れてください。

②パワースイッチをONにしてください。

POWERと書かれたスイッチを入れてください。下鍵盤の手前右にあるランプ(パイロットランプ)が点灯します。これでエレクトーンに電気はいったのです。

③マスターボリュームで音量を調節してください。

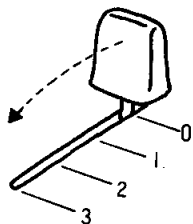
MASTER VOLUMEと書かれたツマミを右に回してください。これは全体の音量を調節するツマミで、右に回すほど、大きな音がでます。だいたい中くらいの位置にしておけばよいでしょう。

④エクスプレッションペダルでも音量を調節してください。

ペダル鍵盤の右側にあるペダルを踏んでください。これはエクスプレッションペダルといって、演奏しながら音量を調節するペダルです。これが戻っている状態では音が非常に小さくなります。

⑤トーンレバーで音色をセットしてください。

UPPER(アッパー/上鍵盤のことです)、LOWER(ロー/下鍵盤のことです)、PEDALS(ペダルス/ペダル鍵盤のことです)、それぞれのトーンレバーを手前に引いてください。このレバーは何種類でも組み合わせられますから、自由に選んでください。レバーはクリックストップ式といって、引く途中2ヶ所に軽い手応えがあり、手前に引くほど音が大きくなります。



クリックストップ(3段階)

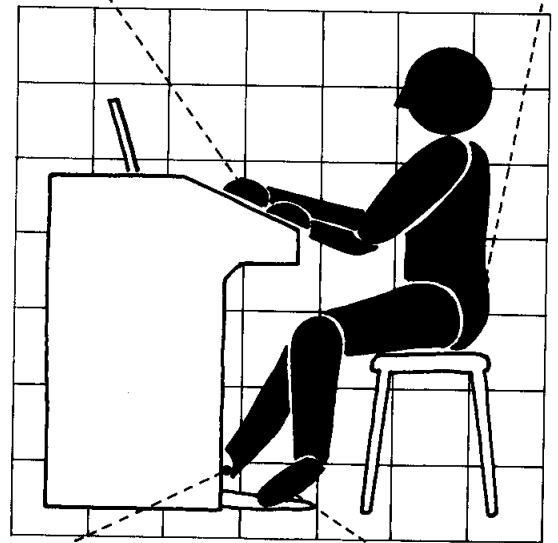
⑥鍵盤を押してください。

上・下・ペダル、各鍵盤を押してください。それぞれの鍵盤で音が出たことと思います。

★演奏は正しい姿勢で。

右手を上鍵盤、左手を下鍵盤にのせてください。

エレクトーンを中心あたり、イスの前半分の位置に楽な姿勢で座ってください。体の重心はやや右よりに。



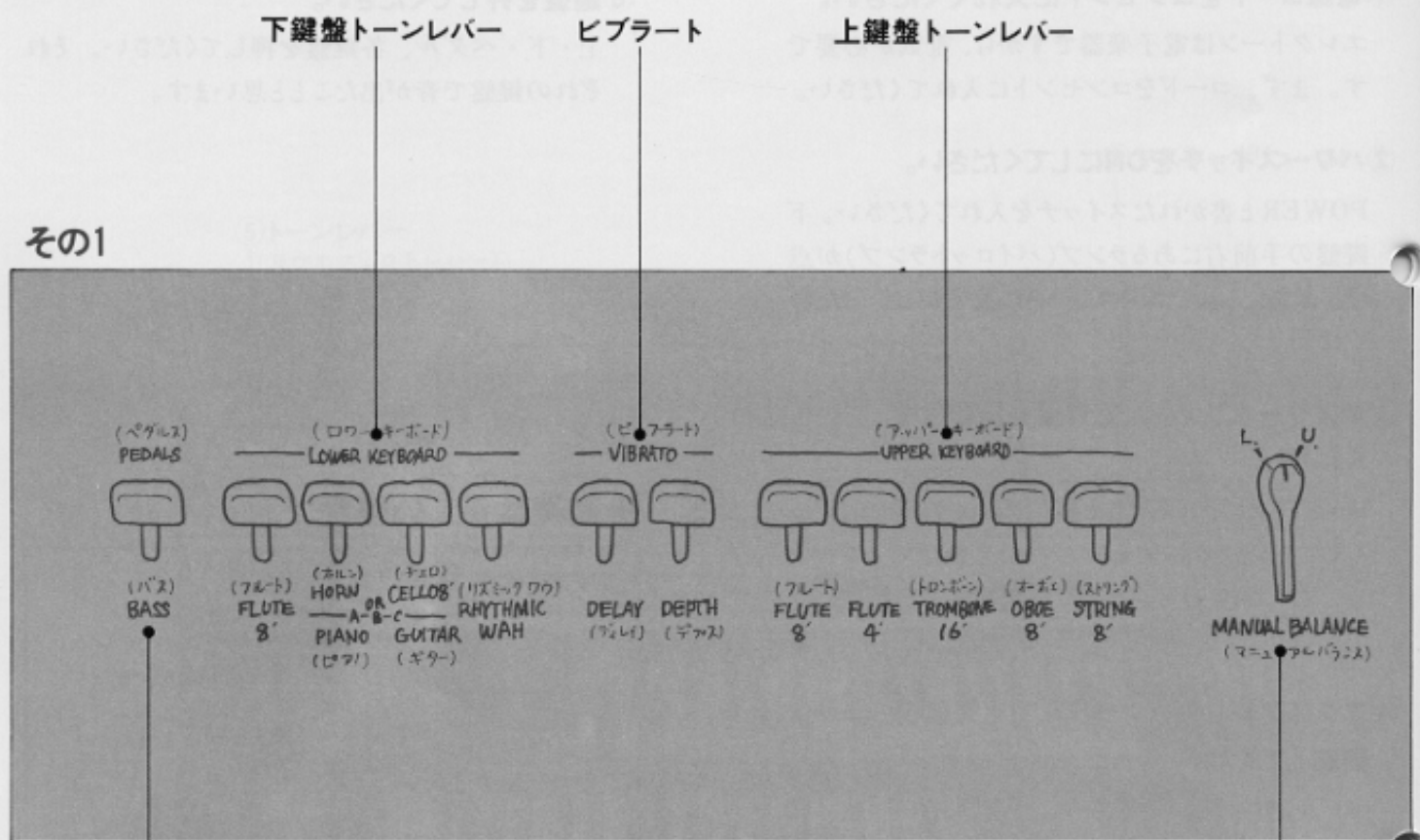
右足は足首の力をぬいて、足のうら全体がペダルにのるように。

左足はひざを中心に時計のふりこのように楽に動かします。白鍵のまん中に指のつけねがくるように。

3 それぞれの機能の楽しみ方

ここからのページではエレクトーンの各パネルについての機能をそれぞれのパネルごとに説明いたします。

その1



ペダル鍵盤トーンレバー

マニュアルバランス

●上鍵盤トーンレバー

上鍵盤の音色をつくるレバーで、5つのレバーを組み合わせることもできます。8'は8フィートと読みます。これはパイプオルガンのパイプの長さに由来し、16'は8'より1オクターブ低く、4'は8'より1オクターブ高い音がでます。

ですから、これらのレバーを組み合わせれば、ひとつの鍵盤からいくつもの鍵盤をおさえたのと同じような音が得られます。これをカプラー効果といいます。

フィート数	実際に出る音	使われかたの例
16'	1オクターブ下の音	厚みを加える
8'	押した鍵盤と同じ音程	基本的な音
4'	1オクターブ上	8'に強さと明るさを加える

●下鍵盤トーンレバー

下鍵盤の音色をつくるレバーで、4つのレバーを組み合わせることもできます。

※リズムミックワウ

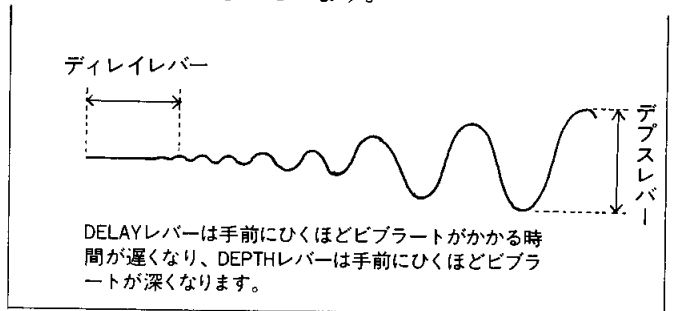
このレバーをオートリズムと一緒に使うと、リズムに合わせて音が「ワウ」という感じで出ます。

●ペダル鍵盤トーンレバー

ペダル鍵盤の音色をつくるレバーです。

●ビブラート

DEPTHレバーを入れると音色がこきざみにふるえ、音にうるおいのつく効果です。DELAYレバーと一緒に入れると、鍵盤を押してからちょっと間をおいて音がふるえはじめますが、DELAYレバーだけでは使えません。また、ディレイビブラートは下鍵盤では使えません。レバーはトーンレバーと同じように、クリックストップになっています。



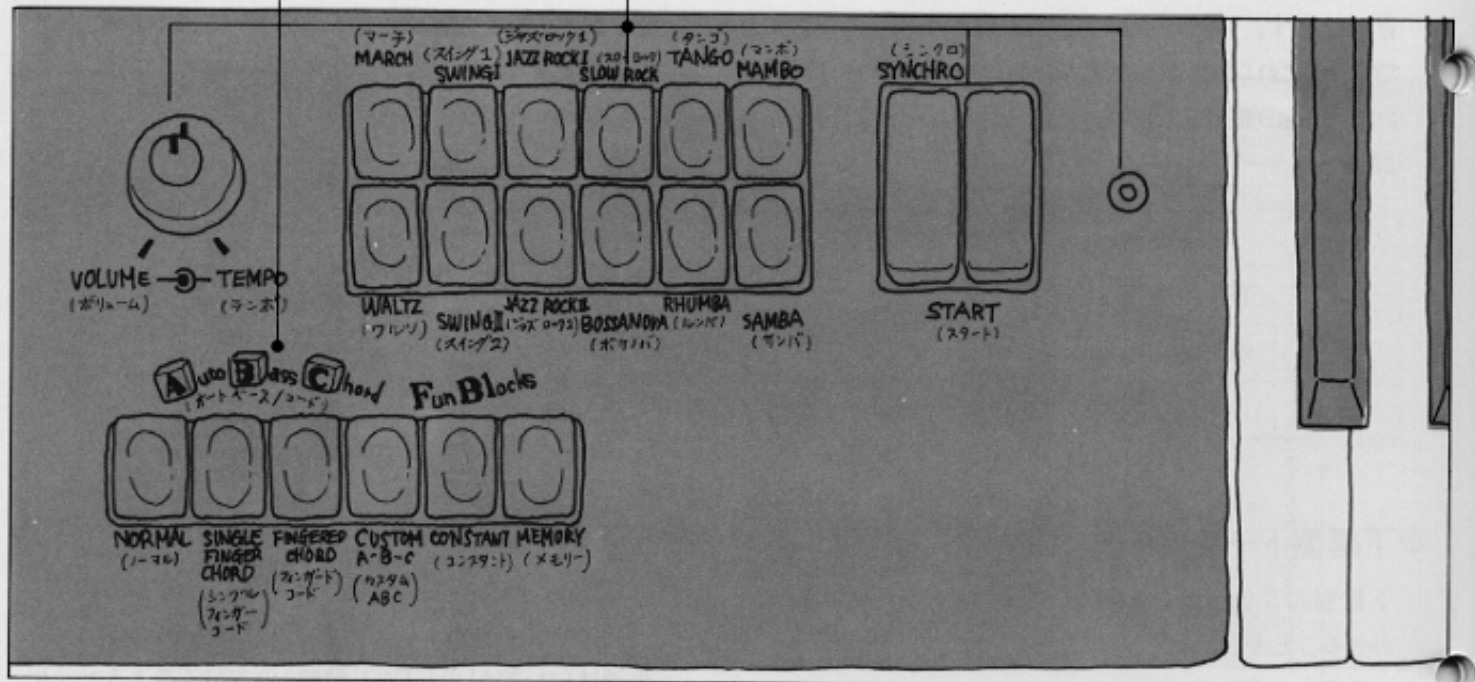
●マニュアルバランス

上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスをとるためのレバーで、特にどちらかの音を強調したい時に使います。普通は白い線が少しU(上鍵盤)の方にくるようセットします。

オートベース/コード

オートリズム

その2



●オートリズム

シンバル、ドラム、ボンゴなどの打楽器音で歯切れのよいリズムをきざむ機能です。

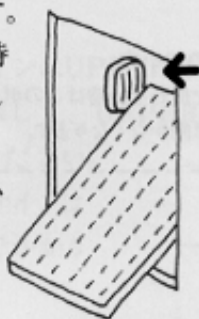
- ①MARCH、WALTZなどの標示のある12のボタンからお好きなものを選んで押してください。



- ②VOLUME-●-TEMPOのVOLUME(内側)のつまみを真中の位置くらいまで回してください。
- ③STARTの右側のタブレットをONするとリズムが鳴り始めます。TEMPOのつまみで速さを調節してください。
- ④STARTのタブレットを戻し、左側のSYNCHROと標示してある方のタブレットをONしてください。このスタートタブレットでは下鍵盤かペダル鍵盤を押すと同時にリズムが第1拍目から鳴り始めます。③と④はどちらかを選んでお使いください。

★テンポインジケータランプは、リズムの第1拍目に点滅します。SYNCHROを使ってリズムを鳴らす時、下鍵盤かペダル鍵盤を押さないとリズムは鳴りませんが、ランプは4分音符の単位で点滅しますから、このランプによってリズムの速さを目で確認できます。

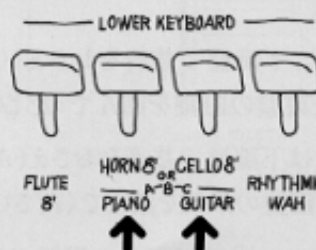
★フットスイッチを左に押し、オートリズムを止めることができます。また鳴らしたい時はもういちど押してください。第1拍目からリズムが鳴りはじめます。



●オートベース/コード

下鍵盤を押すと、下鍵盤とペダル鍵盤の音で和音伴奏がリズムにのってきざまれる機能です。

- ①まずオートリズムでお好きなリズムをきざませてください。
- ②SINGLE FINGER CHORDと標示のあるボタンを押してください。
- ③次に下鍵盤トーンレバーのPIANO GUITARと標示されたレバーを手前に引いてください。これはABCトーンと言って、オートベース/コードを使う時の下鍵盤の音色は、この標示のものになります。



オートベース/コードを使う時もこのレバーを入れるとリズムに合わせて音がなるのでおもしろいです。

- ④ペダル鍵盤トーンレバーを手前に引いてください。このようにしてから下鍵盤を指一本で押すと、押された音をドの場合、ドミソの和音がリズムにのってきざまれます。押した鍵盤とでてくる和音の関係は、(図1)をごらんください。

図1

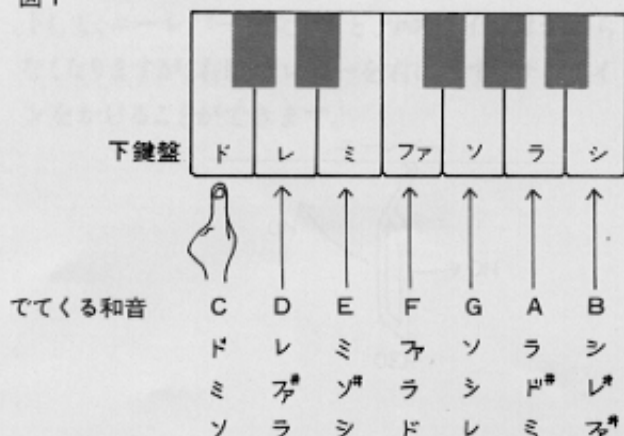
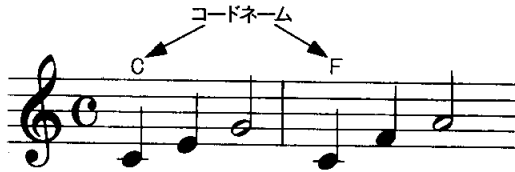


図 2



(図2)のようにコードの書いてある楽譜でCとある場合は、下鍵盤のドをおさえ、Fとある場合はファを押さえればいわけです。

セブンスコード、マイナーコードの場合

例えばG7、Amというようなコード名が楽譜に書かれている時は、ペダル鍵盤を併せて使ってその和音を出すことができます。

7(セブンスコード)では、下鍵盤で基音をおさえ(G7ならソ)、一緒にペダル鍵盤の白鍵を踏んでください。

m(マイナーコード)では下鍵盤で基音をおさえ(Amならラ)、一緒にペダル鍵盤の黒鍵を踏んでください。

m7(マイナーセブンスコード)ではペダル鍵盤の白鍵と黒鍵を両方踏んでください。

●MEMORYのボタンの使い方

SINGLE FINGER CHORDのボタンと一緒に押すと、下鍵盤から指を離しても、それまで鳴っていた和音がそのまま鳴り続けます。これを使うとコードが変わるところで指を速く動かさなくても済みます。

●CONSTANTのボタンの使い方

SINGLE FINGER CHORDのボタンと一緒に押すと、オートリズムとコード(和音)が切り離され、リズムはリズムで鳴り、コードはリズムにのらずに(持続音で)鳴り続けます。メロディーがリズムに追いつかない方には便利です。初心者の方は、さらにメモリーを組み合わせる練習するといと思います。

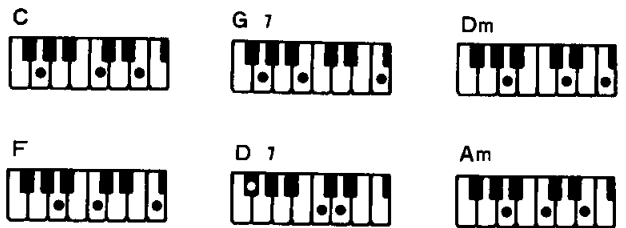
●CUSTOM A-B-Cのボタンの使い方

このボタンを押すと、下鍵盤とペダル鍵盤の音を切り離すことができます。ですから下鍵盤とペダル鍵盤を別々におさえなくてはなりませんが、練習の過程で別々に練習できるので便利だと思います。

●FINGERED CHORDのボタンの使い方

シングルフィンガーコードと同じように使うボタンですが、この場合は指一本ではなく、(図3)のようにおさえた通りの和音でリズム伴奏をさざみます。コードを知っている方は、シングルフィンガーコードを使うよりも便利かもしれません。

図 3



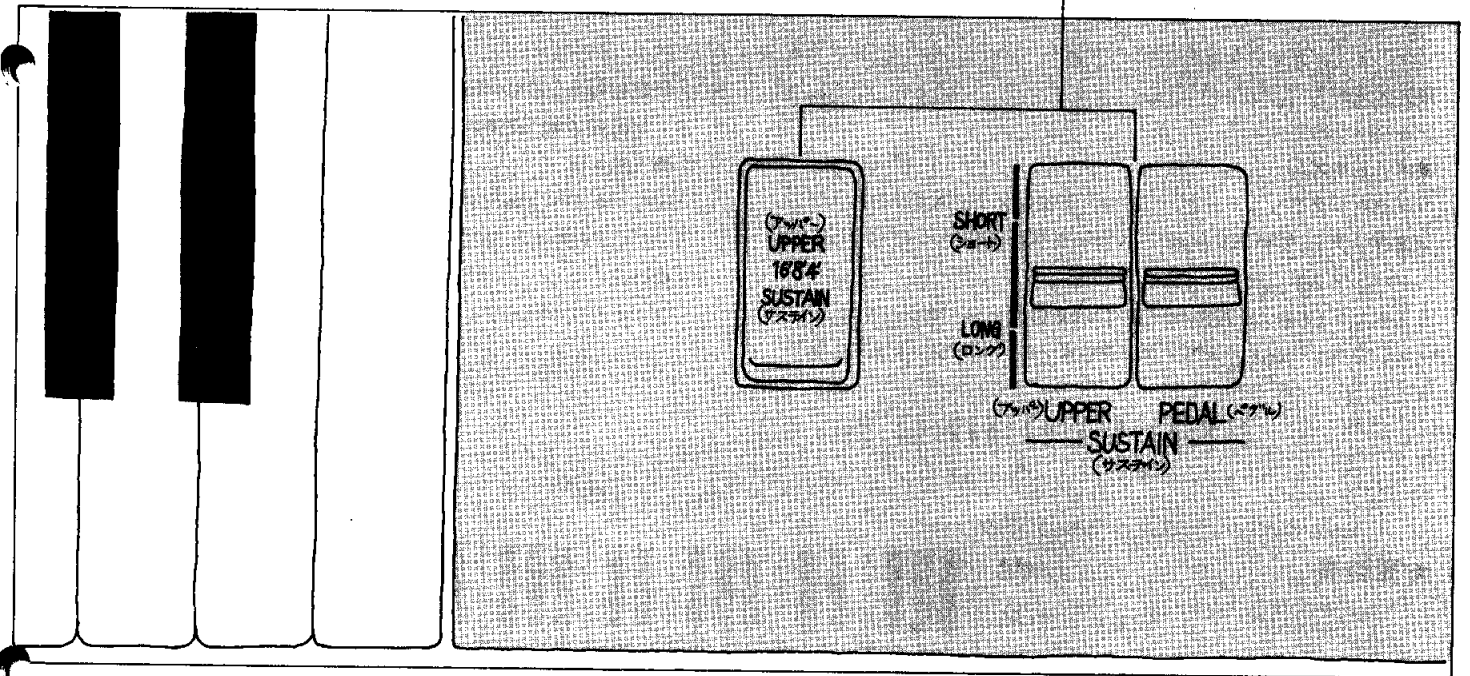
また、フィンガードコードもシングルフィンガーコードと同じようにCONSTANT、MEMORYのボタンと組み合わせることができます。

●NORMALのボタンの使い方

オートベース/コードを使わない時はこのボタンを押してください。オートベース/コードは動かなくなります。

その3

サステイン

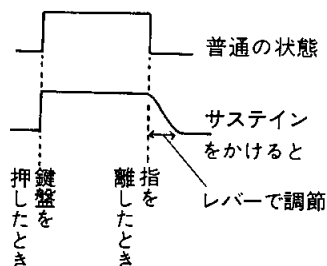


●サステイン

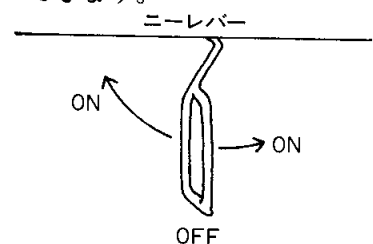
エレクトーンでは普通、鍵盤から指を離すと同時に音が消えてしまいますが、このサステインを使うとピアノなどと同じように鍵盤から指を離しても、少し余韻が付きまます。この効果は上鍵盤とペダル鍵盤の音色にかけられます。

★上鍵盤のサステインはUPPER16'8'4' SUSTAINのタブレットをONして、UPPERのレバーで余韻の長さを調節してください。

ペダル鍵盤のサステインはレバーを引くだけでかかります。



★上鍵盤のサステインはニーレバーを使うと、演奏の途中でも簡単にサステインをかけることができます。あらかじめサステインのタブレットとレバーをセットして、ニーレバーを立てると、サステインはかからなくなりますが、右膝でレバーを右に押すとサステインをかけることができます。



仕様と音域表

★仕様

●鍵盤

上鍵盤：37鍵 (f ~ f₃)

下鍵盤：37鍵 (F ~ f₂)

ペダル鍵盤：13鍵 (C ~ c)

●トーンレバー

上鍵盤：フルート8'・4'、トロンボーン16'、オーボエ8'、ストリング8'

下鍵盤：フルート8'、ホルン8'、チェロ8'、リズムックワウ

ペダル鍵盤：バス

●コントロールレバー(エフェクトレバー)

ビブラート=ディレイ・デブス、アッパーサステイン、ペダルサステイン、マニュアルバランス

●タブレット

アッパーサステイン

●オートリズム

リズムセクター：マーチ、ワルツ、スイングI、スイングII、ジャズロックI、ジャズロックII、スローロック、ボサノバ、タンゴ、ルンバ、マンボ、サンバ

リズムコントロール：スタート、シンクロスタート、テンポコントロール、ボリューム、テンポインジケータランプ、フットスイッチ

●オートベース/コード

セレクトボタン：ノーマル、シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムABC、コンスタント、メモリー

●その他

マスターボリューム、エクスプレッションペダル、パワースイッチ、パイロットランプ、ニーレバー、スイッチドACコンセント、ヘッドホンジャック、EXP-INジャック、AUX-INジャック、AUX-OUTジャック

●メインアンプ

30W

●スピーカー

30cm、5cm各1

●定格電圧100V、定格消費電力35W

定格周波数 50/60Hz

●寸法

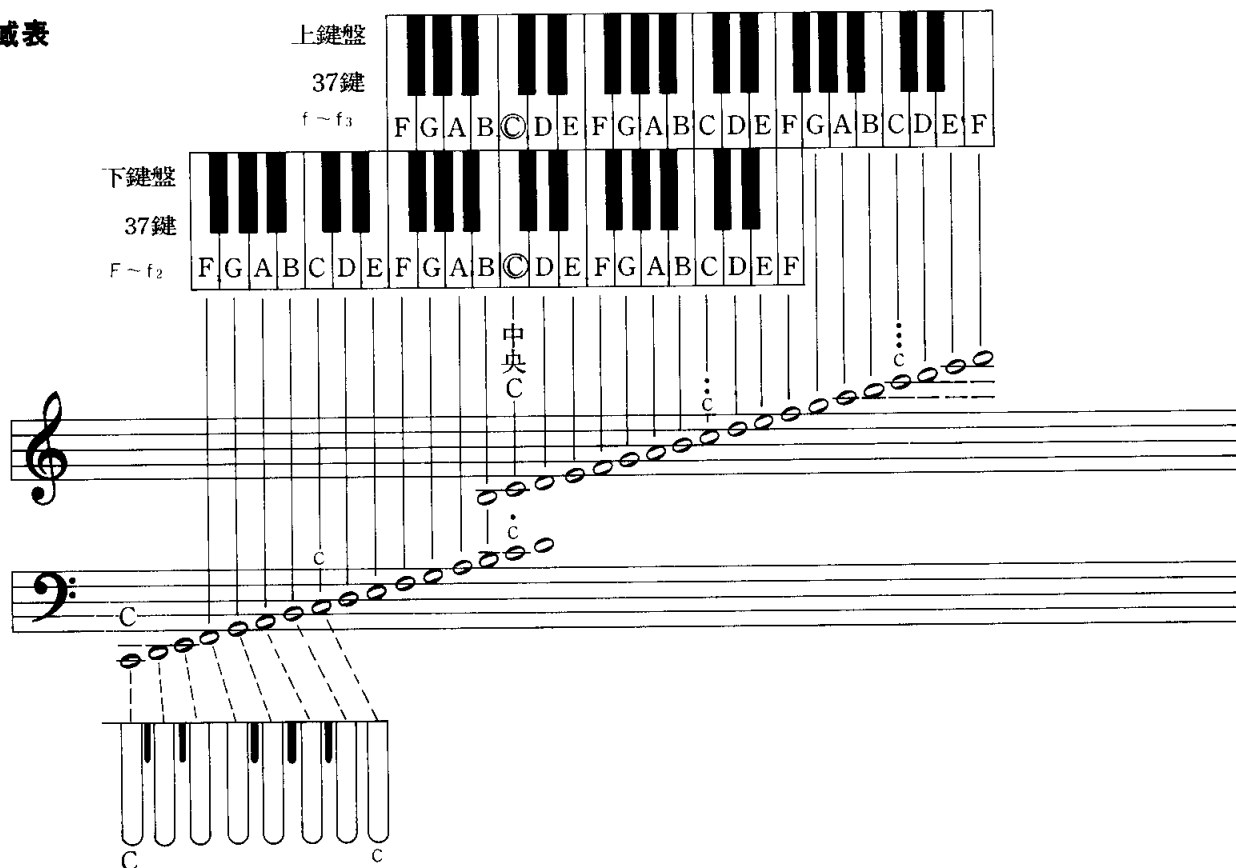
間口104.4cm、奥行55.5cm、高さ94.3cm

(譜面台を立てた時109.0cm) 重量53kg(椅子別)

●外装

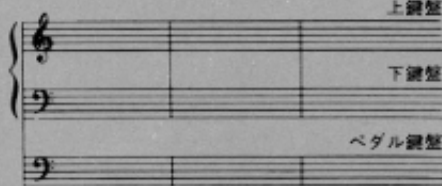
ウォルナット柄メラミン化粧

★音域表




楽譜の読みかたと指づかい

- エレクトーンの楽譜は普通3段にわけて書いてあります。いちばん上が上鍵盤(主にメロディー)、2段目が下鍵盤(ハーモニー)、いちばん下がペダル鍵盤(ベース)のための譜です。なお、運指は他の鍵盤楽器と同じです。




上鍵盤
下鍵盤
ペダル鍵盤



音階の指づかいをおぼえましょう

(正しい運指をおぼえましょう)



となりの音は、となりの指で

- また、オートベースコードを使うことを前提とした楽譜もでています。その楽譜の読みかたは、

シングルフィンガーコードで弾く場合、下鍵盤では、同じ音名の音(→で示したように)はどの位置を押しても同じ高さの音が出ます。ために●をつけた○を押してみましょう。



R C D E F G A B C D E F G A B C D E

→ 上鍵盤を右手で弾く。

ワルツ ♩

オートリズムとテンポを示しています。
[リズム・テンポ]の点を矢印の方向へ調節してください。

Am E7 Am G

この鍵盤図は下鍵盤の左手で押える音(シングルフィンガー)を示しています。

この間はペダル鍵盤は押さない。

ペダル鍵盤の黒鍵(マイナーコード)と白鍵(7thコード)を示しています。
線が引いてある間、ペダルを押してください。

F Dm Am

この間は黒鍵を押すつづける。

付属端子と音のエチケットについて

● 付属端子(ニールバーの右の方にあります。)



● **AUX-IN**(ライン入力端子)はレコードやテープの音をエレクトーンのスピーカーを使って出し、これに合わせて演奏することができます。

● **AUX-OUT**(ライン出力端子)はエレクトーンで演奏した音をテープに録音したり、他のアンプに接続する時に使うものです。

● **EXP-IN**(EXP連動入力端子)はリズムボックスやシンセサイザーなどを接続して、エレクトーンのエクスプレッションペダルで音量を調節しながら演奏できるものです。

● **HEADPHONE**(ヘッドホン端子)はヘッドホンと接続するためのものです。ジャックを入れると、エレクトーンのスピーカーからは音が出ません。

● **ACコンセント**はテープレコーダー専用です。消費電力が30W以上のものは使用しないでください。また、このコンセントはエレクトーンのパワースイッチがはいていないと使えません。

なお、カセットテープレコーダーEC-500を使うときは、AUX-IN につなごう。その他のテープレコーダーは、録音するときはAUX-OUT、再生するときはAUX-INにつなごう。AUX-IN、AUX-OUTの端子に同時にコードを接続すると、ハウリングという現象を起こしますので避けてください。

● 音のエチケット

私たちの日常生活と音は切っても切れない関係にあります。音がしなくなったら、それこそたいへんです。でも、いくらきれいな音でも雑音と同じように感じる時だってあります。自分が気持ちよく演奏していても、他人にとっては迷惑なこともあるのです。ですから、特に人が眠るような時間に音を出すことは、避けなくてはなりません。いくら窓を閉め切っても、音はどこからか伝わってしまいます。そんな時はぜひヘッドホンをお使いになって、心ゆくまで演奏をお楽しみください。音についても私たちは互いにゆずりあい、やさしい心づかいを示すのがエチケットです。美しい音楽を愛されると同時に、住みやすい環境をご自身の手で守ってくださいますよう、皆様のご協力をお願いいたします。



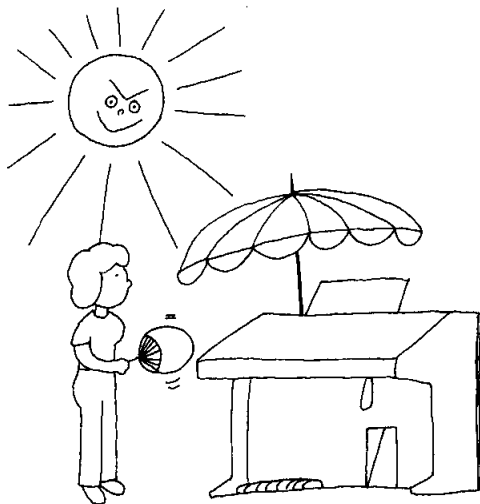
ヘッドホンHP-50A(別売)

ヘッドホン(HP-50A)はヤマハが特に楽器用に開発したもので、たいへん軽くて、耳にあたる部分も柔らかく、エレクトーンを持続音もクリアーな音色で聞くことができます。

長くお楽しみいただくために

エレクトーンをいつまでもお楽しみいただくためには日頃のお手入れ
れがかんじんです。

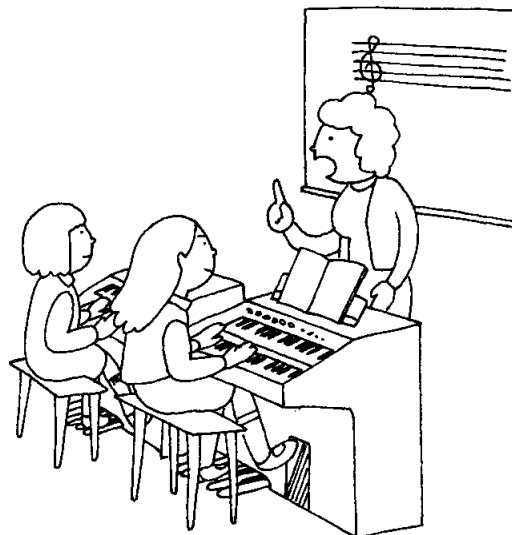
ピアノやオルガンと同じ取り扱いをしていただければ問題ありません
が、特に次の点にはご注意ください。



- 使用後は必ず電源スイッチを切ってください。
- 直射日光は避けてください。
- 外装の塗装はビニールと化学反応をおこしますので、ビニール製のカバーはご使用にならないでください。
- 湿気や熱も避けてください。
- 蓋の上には重い物をのせないようにしてください。
- 蓋を上を持ち上げないでください。
- 蓋の上にヘアピンやコイン等を置いたまま開けると、それが内部にはいつ故障の原因になることがあります。
- 鍵盤のお手入れは水を含ませた柔らかな布できれいにふきとって行なってください。アルコールやシンナー、ベンジンなどの薬品は絶対使わないでください。
- テレビ、ラジオをエレクトーンの間でお使いになると、テレビ、ラジオに雑音はいる場合があります。そのときはエレクトーンからできるだけ離してご使用ください。
- エレクトーンには交換用のヒューズはついていませんが、もしヒューズが切れたと思われる場合でも、絶対にご自分では交換をなさらないで販売店もしくは、日本楽器電音サービス係までご連絡ください。
- 長くご使用にならない時や、雷が鳴っている時などは、電源コードをコンセントからはずしてください。

エレクトーン教室のご案内

お子様に正しい音楽教育を、とお考えのかたや、エレクトーンを自由自在に弾けるようになりたいというかたのために、ヤマハではエレクトーン教室を全国に開設しております。ヤマハエレクトーン教室は、自宅や学校、またお勤め先のすぐ近くにあり、どの教室でも《ヤマハ音楽教育システム》のカリキュラムによる指導を行なっていますから、地区によって水準が異なるようなことはありません。



エレクトーンスクール	対 象	小学生
	期 間	2年間
	レッスン	週1回1時間
		年間44回
		5～10人のグループレッスン
エレクトーンメイト	対 象	中学生以上の初心者
	期 間	3ヶ月～6ヶ月のステップごとに進みます。
	レッスン	週1回1時間
		5～10人のグループレッスン
ジュニア科エレクトーンコース	対 象	幼児科・エレクトーンスクールを卒業したかた
	期 間	4年間
	レッスン	週1回1時間
		年間44回
		5～10人のグループレッスン

このような現象は故障ではありません

下記のような、故障でない現象でサービスを依頼された場合には、保証期間中であっても実費料金をいただきます。

●電気的な現象

現象	原因	解決法
スイッチを入れた瞬間、ボンと音が出る。	メインアンプ内部に電気が流れたため。	エレクトーンが作動する証拠です。ご心配入りません。
スイッチを入れても、すぐに音が出ない。	エレクトーンが正しく作動するためには、5秒くらいの時間があるため。	エレクトーンが正確に作動する証拠です。ご心配入りません。
時々雑音が入る。(ガリッとかポツンという雑音)	①家庭の電気冷蔵庫、洗濯機など電気器具の電源入、切り時。 ②市街地のネオンサインの故障、電気ドリルなど。	①原因と思われる機器からなるべく離れたコンセントを使う。 ②ネオンなどの故障を修理する。 ③原因不明あるいはご不審の点は日本楽器各支店 電気楽器サービス係までご相談ください。
ラジオやテレビ等に雑音が入るときがある。	エレクトーンのすぐ近くにラジオやテレビを置いてあるとき。	ラジオやテレビはなるべくエレクトーンから離してご使用ください。
ラジオやテレビ等の電波が入るときがある。	近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局があるとき。	どうしても気になる場合は、お求めの楽器店あるいは日本楽器各支店 電気楽器サービス係までご相談ください。
トーンレバーによって、鍵盤位置による音量のバラツキがある。	一般に電子楽器では音色を変えるという本質的な要素を持つため、音色による各鍵盤の音量バラツキをなくすことは非常に困難です。エレクトーンではどの音色でも演奏上問題のないように設計、調整されています。	音の強さや音色はエレクトーンの設置場所の状態や聞く位置などによって大きく異なることがあるので、どうしても気になる時はお求めの楽器店あるいは日本楽器各支店 電気楽器サービス係までご相談ください。
ヘッドホンで練習のとき、ブーンという電気の雑音(ハム)が気になる。	本体のスピーカーで音を出している時はあまり気にならないのに、ヘッドホンを使って練習する際ブーンという電気のうなり雑音(ハム)が気になることがあります。	エレクトーン本体の電源プラグをコンセントへ逆にさしこんでみてください。
ペダル鍵盤は同時に2音を押しても1音しか出ない。 また、上・下鍵盤は同時に8音押しても、それぞれ7音しかでない。	ペダル鍵盤は1音、上・下鍵盤はそれぞれ7音ずつの音しか出ないようになっています。これは、演奏上、設計上の理由からですが、演奏上は支障ありません。	ペダル鍵盤は高音優先、上・下鍵盤は先におさえられた鍵盤を優先します。
エレクトーンに鼠が入って故障を起こした場合。	エレクトーンの内側に鼠が入り束線その他を切ったりするため。	保証期間中でもサービス料金を頂きます。鼠の入るおそれのあるところは、お求めの楽器店あるいは日本楽器各支店 電気楽器サービス係までご相談ください。実費にて防鼠処理をさせていただきます。
リズムックワウが、リズムにのらない。	ワルツ、スイングI、とは、連動しません。	左記以外のリズムと組み合わせて下さい。

●取り扱いによる現象

現象	原因	解決法
シングルフィンガーコードまたはフィンガードコードのボタンを入れてもオートベース/コードが作動しない。	オートベース/コードは下鍵盤およびペダル鍵盤のトーンレバーがセットされていないと音は出ません。また、オートリズムが作動していない時はリズムを刻まず持続音となります。	必ず下鍵盤、ペダル鍵盤のトーンレバーをセットしてください。また、リズム伴奏がしたい時は必ずオートリズムをONしてください。
シングルフィンガーコードで下鍵盤の高い方を押さえても低い方を押さえても、音程が変わらない。	シングルフィンガーコードでは定められた1オクターブの中の音が出るようになっています。同じ音名であれば、下鍵盤のどの位置を押さえても同じ音程で和音が出ます。	
オートベース/コードでフィンガードコードとメモリーのボタンを押すと、おさえたはずの和音とは違った和音がきざまれる。	コードをチェンジするとき、瞬間的に関係のない鍵盤に触れて、それを機械がすばやくキャッチするためです。	①正確にコードチェンジを行なってください。 ②メモリーボタンをOFFにしてください。
下鍵盤が鳴りっぱなしになってしまう。	①オートベース/コードのコンスタントがONで、さらにメモリーもONになっているためです。 ②オートリズムがきざまれていて、メモリーがONになっているためです。	オートベース/コードのメモリーボタンをOFFにしてください。

●楽器としての現象

現象	原因	解決法
音が割れる。(共鳴する、あるいはビビる)	エレクトーンの音は持続音ですから、周囲の戸棚、窓ガラスその他の器物に共鳴することが多くあります。	①音量を小さくする。 ②共鳴物を取り除く。
ペダル鍵盤ではピッチが高く、上鍵盤高音部では低く感じる。	特にピアノと比較した場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑で(特に高音、低音では)実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律するので、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。	

サービスと保証について

保証

エレクトーンの本保証は、保証書の裏面に記載の規定によりご購入から満1カ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。また保証は日本国内のみ有効といたします。

保証書

エレクトーンの本納調整サービスの際、本納調整者が保証書内へ必要事項記入のうえ、お客さまにお渡し申し上げます。保証書をお受取りの際は、お客さまのご住所、お名前、お買上げ月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効になりますのでくれぐれもご注意ください。

保証書はよくお読みください

保証書の裏面に

<保証書のご使用法>

<保証期間中でも次の場合は有料修理となります。>

<転居の場合等>

の3項目の本保証規定が記載されていますので、よくお読み下さるようお願い申し上げます。

本納調整サービス

エレクトーンをお納めさせていただきますと、販売店からエレクトーンのご説明かたがたお納めしたエレクトーンの調子を最良状態にするよう点検調整にお伺い致します。その際、本納調整サービスカードを提示いたしますので、カード裏面の点検調整事項について、ご確認・ご捺印のうえ、カードを本納調整者にお渡しください。お求めのエレクトーンについてご不明の点およびお聞きになりたい点がございましたらその節にお申しつけ下さるようお願い申し上げます。

保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社がエレクトーンをご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う1カ年間の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただきますこととなります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮の上で保管してください。(エレクトーンの本裏にありますが保証書ホルダーをご利用ください)また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別やサービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

アフターサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合にはヤマハ特約楽器店、小売楽器店にご連絡いただきますと販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が直ちに調整修理にお伺いします。

2. この保証書は、サービスにお伺いした時に今後の製品改良の貴重な資料とするため技術者がお預りさせていただきます。お預りした保証書は、弊社支店に送られ、記録した後に各支店から直接お客さまにご返送申し上げます。この間、約1週間~10日間程度を要しますがご心配なくお待ちくださるようお願い申し上げます。

3. 遠方に移転される場合は、事前にお買上げ楽器店あるいは弊社支店にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介しますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよう手続きいたします。

保証期間後のサービス

満1カ年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。また、修理可能期間は10年となっております。尚、補修用性能部品(製品本来の機能を維持する為に必要な部品)の最低保有期間は8年となっております。保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転先の楽器店をご紹介します。

サービス依頼をなさる前に

- コンセントに電気が来ているかどうか、電気製品を接続してお確かめ下さい。
- 電話でのご依頼の際、再度、故障かどうかの確認をさせていただきます。場合があるため、ぜひご協力をお願いします。(16~17ページの故障でない現象をご参照下さい。)

お名前、お住まいはハッキリと

- サービスをご依頼下さる時、お名前、お住まいはハッキリとお知らせ下さい。特に、アパートの名前や〇〇方の方書きまで詳しくお教え下さい。また、お訪ねする際の目標物もあわせてお知らせ願います。
- こちらからお客様にご連絡をさしあげることもありますので、連絡方法もお知らせ下さい。たとえば、電話番号(呼出、お勤め先含む)などです。

エレクトーンの様子は詳しくお知らせください。

1. できれば実際にエレクトーンをお弾きになっていらっしゃる方に様子をお聞かせ願えれば、あらかじめ用意する部品などの見当がつき、スムーズにいきます。

2. 時々調子のおかしくなるような場合には、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせ下さい。たとえば、●夜だけ音が小さい ●ある時間だけ雑音が出る ●エレクトーンの音を出さなくても、スイッチを入れるだけで雑音が出るなどの場合です。

3. エレクトーンの種類など、サービスご依頼のエレクトーンに関する詳細は、保証書をご覧になってお知らせ下さい。使用部品が製造時期やモデルによって異なる事もありますので、早く確実にサービスさせていただくために是非お願いいたします。

サービスのお約束について

1. お仕事の関係で、昼間ご不在のお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させていただきます。

2. 万一お約束した日時がご都合の悪い時には、できるだけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡下さい。

3. お店にサービス依頼されたにもかかわらず、日時が経過してもなおサービス員がお伺いしない場合は、お手数でもヤマハのサービス網にご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

ヤマハのサービス網

本社／浜松市中沢町10-1 電音サービス課
☎(0534)65-1111

北海道支店／札幌市中央区南十条西1-4 電音サービス係
☎(011)512-6111

仙台支店／仙台市原町南目薬師堂北2-1 電音サービス係
☎(0222)95-6111

千葉支店／千葉市千葉港2-1 千葉中央コミュニティセンター内・電音サービス係 ☎(0472)47-6611

関東支店／高崎市歌川町8番地高崎センター内・電音サービス係 ☎(0273)27-3366

東京支店／東京都中央区銀座7-9-18 パールビル内・電音サービス係 ☎(03)572-3111

横浜支店／横浜市中区本町6-61-1 電音サービス係
☎(045)212-3111

浜松支店／浜松市幸町3丁目5-8 電音サービス係
☎(0534)74-0311

北陸支店／金沢市泉本町7-7 電音サービス係
☎(0762)43-6111

名古屋支店／名古屋市中区錦1-18-28 電音サービス係
☎(052)201-5141

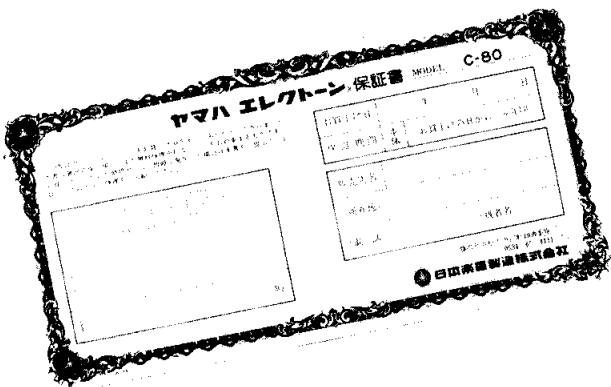
大阪支店／大阪府吹田市新芦屋下1-16 電音サービス係
☎(06)877-5151

神戸支店／神戸市灘合区浜辺通り6丁目1-36 電音サービス係
☎(078)232-1111

広島支店／広島市祇園町西原2207-1 電音サービス係
☎(08287)4-3787

四国支店／高松市西宝町2丁目6-44 電音サービス係
☎(0878)33-2233

九州支店／福岡市博多区博多駅前2-11-4 電音サービス係
☎(092)472-2151



エレクトーン豆知識

●アッパー

アッパーとは「上」のこと。エレクトーンでは主に、上鍵盤関係のことをさします。

●インジケータランプ

表示ランプのことです。

●EXP-IN

この端子にリズムボックスやシンセサイザーなどを接続すると、エレクトーンのエクスプレッションペダルで音量変化をつけながら演奏することができます。

●エクスプレッションペダル

エクスプレッションとは「表現する」という意味で、音の強弱を表現するペダルのことをさしています。

●ABCトーン

オートベースコードが作動しているとき、下鍵盤のフルート以外の音色(ホルンやチェロなど)は自動的に減衰され、ピアノとかギターに近い音になります。これをABCトーンといいます。

●エフェクト

サステインやビブラートのような「効果」のことです。

●AUX-IN

この端子にステレオやテープレコーダーを接続すると、レコードやテープの音をエレクトーンのスピーカーから流して共演することができます。

●AUX-OUT

テープレコーダーに録音したり、他のアンプと接続して音出しする場合に利用する端子です。

●オクターブ

ある音に対して、それより8度音程をなす音をさします。

●オーケストラトーン

フルート以外の、ストリング、ホルン、チェロなどのオーケストラで使われる楽器の音色をさします。

●オートベース/コード

エレクトーンの演奏の際、下鍵盤とペダル鍵盤の伴奏をボタンのセットだけで自動的に行なうことのできるお楽しみ機能です。

●オートリズム

エレクトーン演奏のバックに、ワルツやロックなどのリズムを自動的に流すお楽しみ機能です。リズムは、ドラムやシンバル、そしてボンゴの音などできざまれます。

●オルタネイティングベース

音階の1度と5度の音を交互に使うベース奏法のことです。

●音色

ねいろのことです。エレクトーンのトーンレバーには、フルート、ホルンといった音色名がついていますが、これは、その楽器と“同じ音”ということではなくて、あくまでも、その楽器の音を“イメージ”してつくったものです。

●音程

音と音との間隔のことで、同じ高さの音を1度音程、隣の音を2度音程、そして8度音程の場合を1オクターブと呼んでいます。

●音名

音の高さを呼びあわす名前のことです。日本語ではハニホヘトイロ、イタリア語ではドレミファソラシド。エレクトーンでは、アメリカやイギリスで使っているCDEFGABを用いています。

●音量

音の強さのことで、dB(デシベル)、ホンなどの単位であらわします。音は、波形や周波数が同じでも、この音量が異なっているとちがった感じの音として聞こえます。

●カスタム-ABC

ABCのボタンのひとつで、このボタンを押しておくと、下鍵盤の音はおさえたとおりの和音で伴奏がきざまれ、ペダル鍵盤の音については踏んだ音を基音にしたコードの伴奏が自動的にきざまれます。(オートリズムに連動)

●カブラー

ひとつの鍵盤をおさえることによって、いくつもの鍵盤を同時におさえたのと同じようなさまざまな音を得ることができる効果のことです。

●クリック・ストップ

トーンレバーを前後にゆっくりと動かしてみると途中2ヶ所に軽い手ごたえがあり、レバーをセットできるようになっています。これをクリック・ストップと言います。

●コード

和音のことです。C、C⁷、C^m等のアルファベットで表現します。エレクトーンでは、コードによる伴奏づけをします。

●コンスタント

ABCのボタンのひとつです。シングルフィンガーコードまたはフィンガードコードとあわせて使うボタンで、ABCとオートリズムの連動をキャンセルするはたらきをします。下鍵盤、ペダル鍵盤の音は持続音となります。

●コンソール

フランス語でコンサート(演奏会)という意味です。エレクトーンでは、コンパクトなスピネット型に対して、鍵盤数の多い(61鍵)機種をさしています。

●サステイン

鍵盤から指を離してもしばらく音が残る「音の余韻」のことです。

●シングルフィンガーコード

ABCのボタンのひとつで、このボタンを押しておくと、下鍵盤でコードの基音(たとえばCコードならド)をおさえるだけで、自動的に伴奏がきざまれます。(オートリズムに連動)

●シンクロスタート

シンクロとは「時を同じくする」という意味です。エレクトーンでは、オートリズムやABCを下鍵盤又はペダル鍵盤をおさえると同時にスタートさせるスイッチのことをさします。

●スタッカート

音を短く切って軽快に演奏することを言います。

●ストリング

「弦」のことで、エレクトーンでは弦楽器系の音色をさしています。

●スピネット

もともとは、15世紀から18世紀にかけて使用されていた小型ハープシコードのことです。電子オルガンでは、小型家庭用機種のことをさしています。

●スラー

音を、流れるようになめらかに次の音に移行させる弾きかたです。

●セブンスコード

ある音を基音に7度の音の入った和音です。C⁷・A⁷ というように書かれます。

●タイ

同じ音程の音符が続いて並んでいるとき、指を離さずに続けて弾く奏法です。

●対旋律

メロディーを補助する旋律のことで、主にハーモニーを充足する目的で用いられます。カウンターメロディー、オブリガードとも呼ばれます。

●ディレイビブラート

鍵盤を押してからしばらくしてビブラートがかかる効果です。

●テンポインジケータランプ

ワルツやロックなどの各リズムの第一拍目を表示(赤く点灯)するランプです。

●テンポコントロール

オートリズムのリズムをきざむ速さ(テンポ)を早くしたり遅くしたりする機能です。

●マスターボリューム

エレクトーンの音量をセットするツマミです。

●ニレバー

エレクトーンの棚板下であり、ひざで右に動かして操作します。演奏中、任意にサステインをかけることができます。

●ノーマル

ABCボタンのひとつで、ABCをキャンセルする場合(ふつうの演奏をしたとき)に使用します。

●ピッチ

音の高低の調子、「音程」のことです。

●ビブラート

音をきざみにふるわせ、うるおいをつける効果です。ムーディーな曲やスローな曲に向いています。

●ファンブロック

ファンとは「楽しみ」のことです。エレクトーンでは、オートリズムやオートベース/コード、オートアルペジオのような「お楽しみ機能」をさしています。

●フィート

本来、パイプオルガンのパイプの長さ由来するもので、音の高さを意味しています。

●フィンガードコード

ABCのボタンのひとつで、このボタンを押しておいて下鍵盤でコードをおさえると自動的に伴奏がきざまれます。

(オートリズムに連動)

●フェイド・アウト

音楽では、音をしだいに小さくして消えさせてゆくという奏法をさします。

●フェルマター

音符よりも音を長く伸ばして弾く奏法です。

●フットスイッチ

エクスプレッションペダルの左奥にあります。オートリズムやABCを一時的にストップさせることができます。

●プラス

「真ちゅう」のことで、エレクトーンでは金管楽器系の音色をさしています。

●プリセット

プリとは「あらかじめ」ということ。つまり、あらかじめセットされた音色のことをさします。

●マイナーコード

短調の和音です。Cm、Amというように書かれます。

●マニュアルバランス

上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスを調節するレバーです。

●メジャーコード

長調の和音です。C、A、というように書かれます。

●メモリー

ABCのボタンのひとつで、シングルフィンガーコード・フィンガードコードで弾いているときこのボタンを押すと、下鍵盤から指を離しても同じ伴奏がメモリー(記憶)されて自動的にくり返されます。

●リズムミックワウ

オートリズムに合わせて、音が“ワウワウ”というように出ます。ABCと一緒に使うとより効果的です。

●リズムセクター

ワルツ、ロック、スイング、ルンバ、マーチその他のリズムをセットするボタンです。

●リタルダンド

テンポをだんだん遅くしていく(曲の終わりなど)弾きかたです。

●リバーブ

音が、広い室内で弾いているようなひろがりをもつ、一種の残響効果です。

●レガート

「なめらか」な演奏表現のことです。スラーよりももっと広範囲な、イメージ的な表現としてとらえています。

●レジストレーション

演奏にあたって、レバーやボタンなどをセットし音色を決めることです。

●ロワー

ロワーとは「下」のこと。エレクトーンでは主に、下鍵盤関係のことを意味します。

エレクトーンを大切に。

いつまでも

お楽しみください。

本社・工場／〒430 浜松市中沢町10-1
TEL. 0534(65)1111

東京支店／〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内
TEL. 03(572)3111

銀座店／〒104 東京都中央区銀座7-9-14
TEL. 03(572)3131

渋谷店／〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-7
TEL. 03(476)5441

池袋店／〒171 東京都豊島区南池袋1-24-2
TEL. 03(981)5271

横浜支店／〒231 横浜市中区本町6-61-1
TEL. 045(212)3111

千葉支店／〒280 千葉市千葉港2-1/千葉中央コミュニティセンター内
TEL. 0472(47)6611

関東支店／〒370 高崎市歌川町8番地/高崎センター内
TEL. 0273(27)3366

大阪支店／〒564 吹田市新芦屋下1-16
TEL. 06(877)5151

心斎橋店／〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39
TEL. 06(211)8331

神戸支店／〒651 神戸市灘合区浜辺通6丁目1-36
TEL. 078(232)1111

四国支店／〒760 高松市西宝町2丁目6-44
TEL. 0878(33)2233

名古屋支店／〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL. 052(201)5141

北陸支店／〒921 金沢市泉本町7-7
TEL. 0762(43)6111

九州支店／〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL. 092(472)2151

福岡店／〒810 福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内
TEL. 092(721)7621

魚町店／〒802 北九州市小倉区魚町1-1-1
TEL. 093(531)4331

北海道支店／〒064 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター内
TEL. 011(512)6111

仙台支店／〒983 仙台市原町南目薬師堂北2-1
TEL. 0222(95)6111

広島支店／〒730 広島市紙屋町1-1-18
TEL. 0822(48)4511

浜松支店／〒430 浜松市田町32
TEL. 0534(54)4115

エレクトーン®は当社の登録商標です。



YAMAHA

日本楽器製造株式会社